

## 1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

ぼくの町は海のそばにある。夏になると観光客でにぎわい、港には色とりどりの船がならぶ。□  
 ぼくのお気に入りのはずれに立つ古い灯台だ。白い壁はどこどころはがれ、鉄の扉はさびついている。今では使われていないのに、子どもたちからずっと気になっていた。

ある夕方、友だちと海辺で遊んでいると、ふと灯台の方から淡い光が見えた。壊れかけた灯台が光るはずはない。胸がざわついたが、友だちは気づかずに帰ってしまった。ぼくは一人で灯台に向かうことにした。

近づくと潮風が強く、波の音がごうごうと響く。大きな影のようにそびえる灯台を見上げ、扉を押すと、意外にも軽く開いた。中はひんやりと暗く、らせん階段が上まで続いていた。ときどきしながら足を踏み出すと、古びた金属の「カタン……カタン……」という音がどこからか響いてきた。

やっと最上階にたどりつくと、大きなレンズと古い灯があった。レンズはひび割れていたが、淡い光を放っていた。

「ここまで来たのは君か。」

背後から声があった。ふり返ると、作業着姿の年配の男性が立っていた。海のように深い色の目をしてる。

「この灯台はむかし、嵐の夜に光で船を導き、多くの命を守ったんだ。」

ぼくは思わず聞いた。

「でも今は使われていないんですよね。」

男性はうなずき、静かに言った。

「新しい灯台ができて、役目を終えた。だが、この灯台の思いはまだ残っている。君が見た光は、その名残りかもしれない。」

窓から吹きこむ風にレンズの破片がきらめき、ぼくの胸は熱くなった。

「ぼくは熱くなることはあるんですか。」

男性はやさしく答えた。  
 「まずは、この灯台を忘れないこと。そして町の人に伝えるんだ。忘れられなければ、この灯台は生き続ける。」

次の瞬間、男性の姿は消えていた。残ったのは淡く光るレンズだけだった。

外に出ると、夕日が海を赤く染めていた。港の船が小さく見え、波の上を鳥が飛んでいく。ぼくは立ち止まり、古びた灯台をふり返った。壁のひびや錆びた扉さえ、いとおしく思えた。

家に帰って母に話すと、母は少し驚いた顔をして言った。

「私が子どものころ、まだあの灯台は光っていたのよ。おじいさんたちはあの光のおかげで無事に港に戻れたんだって。」

母の言葉を聞き、灯台が町の歴史の一部だとあらためて感じた。

次の日、ぼくは友だちを連れて灯台へ行った。みんな最初はこわごわだったが、上階にのぼり、ひび割れたレンズを見て「ここが光っていたのか」と目を丸くした。ぼくはうれしくなった。ひとりでは知り、みんなで感じたほうがいいと思ったからだ。

その夜、窓から海をながめると、古い灯台がほんのり光っているように見えた。もう役目を終えたはずなのに、まだ町を見守っているのだろう。ぼくは心の中でつぶやいた。

「大丈夫。ぼくも、この灯台のことを忘れないよ。」





(1) 文中の  に合う言葉を一つ選びなさい。

- ① やっと
- ② さらに
- ③ つまり
- ④ けれども

答え ( ④ )

(2) 本文のはじめで、灯台の様子を表す言葉を二つ書き抜きなさい。

①  白い壁はところどころはがれ

②  鉄の扉はさびついている

(3) 友だちが帰ったあと、一人で灯台に向かったぼくの気持ちに最も近いものを一つ選びなさい。

- ① こわかったが、どうしても確かめたいと思った。
- ② 友だちと一緒に遊び続けたかった。
- ③ 光は見間違いだと思い、気にしなかった。
- ④ 灯台がきれいなので遠回りして帰った。

答え ( ① )

(4) 男性は「灯台の思いはまだ残っている」と言いました。この言葉の意味を三十字程度でまとめなさい。

解答例  
灯台の役目は終わったが、人々に忘れられずに残っていること。

(5) 母が語った灯台の思い出として正しいものを選びなさい。

- ① 母が子どもころもすでに壊れていた。
- ② おじいさんたちは光のおかげで無事に帰れた。
- ③ 港の船は灯台をこわがって近づかなかった。
- ④ 灯台は一度も使われたことがなかった。

答え ( ② )

(6) 母の言葉から、ぼくはどのように灯台をとらえるようになったか。四十字程度で書きなさい。

解答例  
灯台が町の歴史の一部であり、人々の命を守ってきた存在だと感じた。